



浜松学習センターの白井椋子さん（3年生）が居住する湖西市（旧新居町）の姉妹都市であるジェラルトンへの親善訪問団に決まりました。以下に、親善訪問団になるまでの経緯や現地での感想を記載します。

私の住んでいる新居町がオーストラリア ジェラルトン市と姉妹都市提携を組んでおり、日本からオーストラリア、オーストラリアから日本と1年おきに留学生が行き来しています。日本から行けるのは中学生と高校生で私が中学2年生の時にも行けるチャンスがありましたが、残念ながら人数が足らず、中止になってしまいました。今年、自宅に届いた回覧板でオーストラリアに行けることを知り、今ならハワイ研修のために貯めていた貯金があるので、それを使って行こうと思い応募しました。今年は湖西市と合併したおかげで15人の中高生が集まり実施されることになりました。

ホームステイ先は当地では裕福ですが子供のいない家庭でした。オーストラリアの家は日本の家と違ってほとんどが平屋建てでとても大きく、その敷地もとても広くて日本では考えられないと驚きました。ステイ先の近くにはインド洋が見え、ファミリーと海辺で遊んだり、日曜日には動物園のようなところで、エミューやカンガルーにえさをあげました。ステイしている間、私はオーストラリアの中高一貫校と幼小一貫校に行きました。

中高一貫校での3時間目の授業は訪問団15人がそれぞれ一人ずつ別々のクラスで授業を体験しました。私は宗教の授業を受けました。内容は今オーストラリアで問題になっている事件についてディベートしたり、自分のキャリアについてまとめたりする授業で難しかったです。授業はパソコンで受けており、先生の目を盗みながらパソコンでゲームやったりしていて、生徒の授業中の態度は日本でもよく見かけるなと思いました。学校で決めてくれたバディースチューデントの男の子と一日を過ごし、彼とても仲良くなれ、昼休みには彼の友達と3人で過ごし楽しい学校生活を過ごすことができました。彼の友達が私にチキンフライを奢ってくれたときはとても嬉しかったです。小学校では私は7・8歳の教室に入り授業を見学しました。授業では同音異字語の授業をしていて難しい単語があったので電子辞書を出したとたん子供達が私の周りを囲み、電子辞書に興味深々で私は電子辞書の説明をしたり、自分が使っている携帯や日本の紙幣などを見せました。午後の授業は算数でしたが生徒の集中力が切れてしまいいきなり算数から体育の授業に変更した時は日本ではありえないことだとカルチャーショックを受けました。そのあとの授業では折り紙の授業をし、私は折り紙を教えることができました。しかし一つだけバラの折り方を知らず、ギブアップしてしまったので折れなかったことが悔しかったです。

ファミリー以外との接点もたくさんあり、たくさんの人と英語をしゃべることができ「あなたの英語は上手ね」と言われて自分の英語に自信がついたのでより英語の勉強に力を入れようと思いました。

帰国後、最初に思ったことは日本の水道水の美味しさです。ハワイ研修からの帰国後も、同じことを思いました。日本人は日本の（都市部の）水道水はまずいと言うけれど、海外に行けば水道からしょっぱい水が出てくるので日本人は贅沢者だと思います。今は、ホストファザーと約束したメールでのやり取りを続けています。いつの日か個人でオーストラリアを訪れることができれば良いなと思っています。